

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 南アルプス市立芦安中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）
所在地 〒400-0242
山梨県南アルプス市芦安安通350番地
E-mail ashiyasu.jhs@m-alps.ed.jp
Website http://www.ashiyasu.m-alps.ed.jp/
児童生徒数 男子 7名 女子 11名 合計 18名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1. はじめに

本校は「ユネスコの理念を実現すべく、環境を中心とした取り組みを行って」おり、平成23年度にユネスコスクールに登録された。具体的には、学校林の植樹、夜叉神峠の清掃活動と巣箱や自然愛護看板設置、そして全校登山である。

学校林の植樹では、桜の苗木を学校から40分ほど歩いた場所にある学校林に植えている。苗木についてはシカの食害等が顕著であったが、近年苗木に防護カバーを取り付けていることで、多くが食害を逃れている。

夜叉神峠の清掃活動は、毎年登山前に実施している。グループごとに、登山道のゴミ拾いや環境啓発看板・巣箱の設置等を行っている。生徒数が限られている中ではあるが、登山口にある小屋も掃除し、登山客が気持ちよく登山してもらえるように活動している。

加えて、後述する全校登山を毎年実施している。全校登山は、本校が自然体験活動を重視していることを特色づける大きな柱となっている取り組みである。本校の自然と環境への取り組みは、ユネスコスクールに登録する前から行っていることではあるが、登録によりさらに多くの方々に本校の活動を発信すべく、ホームページなどで積極的に自然環境を啓発する活動を行っている。

2. 主な活動

(1) 環境・生物多様性に関する活動

(1)-1 全校登山

①全校登山の概要

本校の全校登山は、1977年に創立30周年の記念行事として始まった。1992年からは北岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山の三つの山をローテーションで登っている。これらの山々はいずれも南アルプス市芦安地区（旧芦安村）にある。目的の一つに、生徒に中学校生活三年間の全校登山で、日本有数の山が私たちのふるさとにあるという誇りを持ってもらいたい、というものがある。

また、2008年からは毎年テーマを設けて登山学習を行っている。ここ数年、山ごとにテーマが定まっている。具体的には、北岳は「自然環境について」、仙丈ヶ岳は「写真などを使った自己表現」、そして鳳凰三山は「歴史や文化について」である。これらの学習は、地域の登山に詳しい方々や、環境省や南アルプス市役所などから専門家の方々を招くなど、外部との連携を図って行っている。

②仙丈ヶ岳全校登山の実践

i) ねらい

【郷土学習の観点から】

・芦安地域が有する仙丈ヶ岳への登山体験および学習を通して、豊かな感性を養うとともに、山に親しみ、山を知り、山について考え、誇りを持って地域に関わっていこうとする心情を育む。

【環境学習の観点から】

・仙丈ヶ岳の豊かな自然についての学習を進めることで、動植物の生態系を中心に知識を深め、多様な生態系を学ぶ機会とするとともに、私たちに多くの恵みをもたらしていることを理解する。

【自己表現活動の観点から】

・日本有数の自然を有する南アルプスに位置する仙丈ヶ岳について、登山を通して感じたことを写真と詩を使い、工夫して表現しようという態度を養う。

ii) 登山学習の経過

○仙丈ヶ岳をよく知り登山しよう【地元登山支援者 清水さん】

仙丈ヶ岳の開山の歴史や今回登るコースの概略、そして芦安地域に仙丈ヶ岳をはじめとする南アルプスの多くの山があることを説明していただいた。

○南アルプス自然環境の現状【環境省 自然保護官事務所 仁田さん・大石さん】

ライチョウやキタダケソウは氷河期の残存種でありとても貴重であることや、シカが標高2000m以上にまでやってきて草花を食べていることなど、現在南アルプスにおける自然環境の現状を説明していただいた。

○仙丈ヶ岳に登った感動を表現しよう

仙丈ヶ岳に登って印象深かったことを詩にまとめた。「伝えたいこと」「聞く人のこと」「リズム」を意識した作品が多くできた。作品は学園祭で掲示を行った。

iii) 仙丈ヶ岳登山

仙丈ヶ岳登山は7月10日（金）、13日（土）の1泊2日で実施した。本番当日は天候に恵まれて、2日目には無事山頂にたどり着くことができた。全員で協力して、参加生徒は全員無事に登山を成功させることができた。山頂へは2日目の早朝に到達し、ご来光を仰ぐことができた。それぞれの思いを書き記した横断幕を山頂に掲げて写真を撮ることができたことは、生徒にとっても大きな達成感だったと思う。

iv) 成果と課題

【成果】

○全校登山の一連の活動を通じて、南アルプスという日本有数の山岳地域に私たちが暮らしていることに対する誇りや環境保護の大切さを感じることができた。

○山に関わる様々な方との交流の機会を通じて、南アルプスの自然の奥深さや登山に対する幅広い見識を得ることができた。

○登山学習や当日の登山を通して感じた、自然の雄大さや貴重な動植物の大切さを詩にすることで、自分の思いや考えをメッセージとして表現することができた。

【課題】

○全校登山は総合の時間が主であるが、総合だけでなく様々な教科との関連や連携を図ることで、生徒にとっても登山や環境について身近に感じられると思う。

○全校登山の取り組みは教師が主体となっていく場面が多い。登山学習を進める中で、生徒がもっと主体となる場面を多くすることで、生徒自らが環境などに対する問題意識を高めることができると考える。

(1)-2 学校林植樹

・本活動は、4月26日（日）の午後、授業参観やPTA理事会の後に生徒、保護者、教職員で実施した。昨年度に引き続き、桜を生徒一人1本植えた。

(1) - 3 夜叉神登山道清掃活動

・本活動は、6月22日(月)に、教員と生徒にて実施した。内容としては、夜叉神峠付近の環境美化活動(登山道のゴミ拾いと小屋の清掃)と自然愛護活動(小鳥の巣箱の設置及び修理)である。教員と生徒がチームを組み分担して活動にあたった。特に、峠道のゴミについては、道を外れたところに多くのゴミがあった。生徒は時間いっぱいまで意欲的に活動していた。そして同時に、生徒の口からはどうしてこれほどまでにゴミが存在するのかといった驚きや疑問の声が上がった。この活動を通じて、自然を自然のまま残すことの大切さと大変さなど、多くの気づきを得たものとする。

(2) 国際理解に関する活動

(2) - 1 Be Open Project

① Be Open Project の概要

南アルプス市教育委員会、株式会社 ATL システムズの協力を得て、Be Open Project の Conference を平成 28 年 2 月 22 日(月)に本校多目的室で行った。本プロジェクトは Skype を用いて、海外との同時中継を結び、コミュニケーションを図るものである。本年度はオーストラリア-St. MacKillop 校、アメリカニューヨーク在住の日本人大学生との交流を図った。

② Be Open Project の実践

i) ねらい

【国際理解学習の観点から】

- ・ 普段学習している英語学習の成果として、実際に英語を母語とする人や、海外で生活を送る人と英語を通してコミュニケーションをすることで、海外の学校生活の様子を知る機会とする。
- ・ 国際社会に生きる日本人として、自国の文化を再確認する機会とする。相互のプレゼンテーションを通して、自文化理解とともに異文化理解を深める。
- ・ 今後の英語学習の動機づけとする。

【自己表現活動の観点から】

- ・ 英語でプレゼンテーションを行う中で、文法や発音の正確さだけが相手に伝えるための技術ではないことを知る機会とする。話す速度や声の大きさ、顔の表情や目線・ジェスチャーなども取り入れ、聞き手に伝わりやすいように表現しようという態度を養う。

ii) Be Open Project の経過

平成 27 年 10 月 21 日(水)を皮切りとし、当日までに 7 回の Be Open Project ワークショップを設けた。中学 1・2 年生チームと中学 3 年生チーム(さらに小学 5・6 年生チーム)に分かれ、自分たちの住む芦安について、をテーマとして原稿の作成を行った。ワークショップの中では、原稿の作成、英訳、発音やイントネーションの確認、基本的なプレゼンテーションスキルなどについて学んだ。

iii) Conference 当日の様子

当日は 3, 4 校時帯(日本時間にして 10:30~12:30)に行った。学校外からも南アルプス市市長をはじめ、4 名の外国人コメンテーター、他たくさんの方々の見守る中、盛大に開催することができた。まずは自分たちのプレゼンテーションを行った。続いて St. MacKillop 校のプレゼンテーションの発表を聞いた。オーストラリアの生徒は日本語を学んでいる生徒であり、プレゼンテーションも

日本語で行われた。最後に、アメリカの日本人大学生からのプレゼンテーションが英語で行われた。それぞれのプレゼンテーションの後には、質問を受ける時間があり、互いにコミュニケーションを図った。プロジェクト終了後には、コメントの方々や ATL システムズの方々と会食の時間を設けた。その中でも生徒は不慣れながらも英語を使ってコミュニケーションを図っていた。

iv) 成果と課題

【成果】

○プレゼンテーションを通して、英語を通してコミュニケーションをとることの楽しさを感じることができた。

○自分たちの英語が相手に通じているという、達成感を味わわせることができた。

○相手のプレゼンテーションを聞いて、理解できたこと・できなかったことに個人差はあったが、生徒は英語学習の大切さを感じ、これからの英語学習の動機づけとすることができた。

【課題】

○とっさに質問が来た時に、詰まってしまう。つなぎ言葉を用いるなどして、コミュニケーションに弊害が出ないようにしていきたい。

○英語の発音やイントネーション、アクセントなどをもっと意識させていく。

5. おわりに

自然環境や国際理解に対する意識は、机上の学習とともに実際に見たり、聞いたり、体験することにより、その意識が高まると考える。今回の登山学習や Be Open Project 活動を契機にして、生徒の心に自然に対する畏敬の念や国際理解に対する思いが深まることを期待したい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ _____ ）

Be Open Project, Conference の様子



Road to Senjo



芦安中学校
全校登山通信 No. 1
27. 6. 22 (月) 発行
発行者 全校登山担当

登山学習【仙丈ヶ岳登山ガイドンス・写真の撮り方】

今年も全校登山の学習が始まりました。今年の登山のスローガンは『支え合い 笑顔と感動の頂上へ！』に決まり、みんなで今年挑戦する仙丈ヶ岳への想いが高まってきました。

17日には毎年全校登山で大変お世話になっている清水准一さんをお招きしました。仙丈ヶ岳がどこにあってどんな山であるのかなど、基礎的なことから貴重な動植物について、そして登山の際に気を付けることを説明していただきました。みんな、熱心にメモを取って聞き入っている姿が印象的でした。

また、それに引き続いて写真の撮り方について写真と実演を交えながら指導していただきました。カメラの仕組みやピントの合わせ方、色々なモードの選び方など、大変参考になったと思います。仙丈ヶ岳登山では、まわりの景色や動植物に目を向けながら、記念となる写真をたくさん撮ってきましょう。

◇わかったこと・感想（一部抜粋）◇

仙丈ヶ岳登山ガイドンス

- ・氷河地形、ライチョウ、カモシカの生息、標高 3032.7m、フロッケン現象が起きることがわかった。
- ・虫が小さいと花も小さくなる。
- ・金梅は、見つけた人の名前がつけられている。
- ・ライチョウは季節によって色が変わる。山の地面と同じ色になる。(空の上に敵がいるから、ライチョウがいる場所がわからないうようにするため)
- ・山頂には、二等三角点が設置してある。
- ・仙丈ヶ岳にはたくさんの花があることを知り、楽しみが増えた。
- ・仙丈ヶ岳には大きな氷河地形が見られることを初めて知り、登山するのが楽しみになった。
- ・コツガザクラを見てみたいと思った。チョウ/スケソウの名前の由来が面白い。
- ・ライチョウの鳴き声はカエルみたい。
- ・准一さんに注意してもらったこと、見て欲しいことなど色々知れたので、仙丈ヶ岳登山では無事に帰ってきたいと思いました。
- ・山では山のルールを守って登りたいと思った。
- ・ニホンジカが高山植物を食べている。
- ・登山をする時は、ルールやマナーに気を付けていきたいと思う。

写真の撮り方

- ・カメラで撮る時のモードがたくさんあることを知り、普段写真を撮る時に取り入れてみようと思いました。
- ・カメラの使い方をくわしく教えてもらい、とても良かったです。仙丈ヶ岳に登るのがすごく楽しみになってきました。
- ・実際に外で写真を撮ってみて、花は前から撮るより、少し斜め上から撮るときれいに写ることがわかりました。
- ・カメラのモードで撮れる写真が違う。
(色々なモードがあることを初めて知った)
- ・シャッターを開ける時間によって、色々な写真を撮ることができると。
- ・カメラにたくさんの機能があり、山登り以外でも使えると思いました。
- ・初めて写真の撮り方やカメラについて教わって、初めて知ったこともあって、良かった。山で撮るのが楽しみになった。
- ・カメラでも色々な撮り方があるのだなと思いました。
- ・写真の撮り方は、撮るものによってオプションを変えることを駆使して写真を撮りたいと思いました。
- ・仙丈ヶ岳では写真をたくさん撮ると思うので、良い写真をたくさん撮っていこうと思いました。

Road to Senjo



芦安中学校
全校登山通信 No. 2
H27. 6. 26 (金) 発行
発行者 全校登山担当

登山学習【感動を表現し、伝えよう 『私の1枚』発表会】

6月23日(火)には、17日(水)に清水准一さん御指導のもとに撮影した「ベストショット」にそれぞれの「詩」をつけた『私の1枚』の発表会を行いました。写真は花もあれば風景、動物など様々で、撮り方もバックをぼかしたり逆光で撮ったりと、それぞれに工夫の見られる作品になっていました。

詩の内容も草間先生の言っていた、「伝えたいこと」「聞く人のこと」「リズム」を意識した作品になっていました。可愛らしい表現あり、面白い表現ありで、写真に個性を与えていましたね。仙丈ヶ岳登山でも色々なテクニックを使って良い写真を撮り、個性あふれる詩をつけて、only oneの作品にしてほしいと思います。

◇みんなの感想（一部抜粋）◇

- 〇〇へ 最後の「これがオレだ」がカッコよかった。家来アリというアリが本当にいればいいと思った。
- 〇〇へ 写真と詩があって上手！詩が本当に歌みたいで、きれいな詩だと思います。
- 〇〇へ いつも意識していないステンドグラスを写真にとるときれいにできて良かったと思います。
- 〇〇へ どこにでもあるような花なのに、自分に自信をもって生きているような感じがする。
- 〇〇へ 中心のシロツメクサをきれいにとり、背景をぼかして、よりシロツメクサがきれいに見える。
- 〇〇へ 山の気持ちがあまくわかりやすく書かれていていいと思った。いつか知られる時がくるといい。
- 〇〇へ ラップのようなリズムですごい良かったと思いました。
- 〇〇へ 最初ナルシストかなと思ったけど、花がキレイで詩もかわいかったです。
- 〇〇へ 詩はみじかいけどよかった。心がホッコリした。
- 〇〇へ わたげをとるなんて〇〇ちゃんらしいと思った。実際にゆめが叶えられるといいね。
- 〇〇へ つつじのあざやかなピンクや花びらにのっているしずくがきれいに撮れていて良いと思った。
- 〇〇へ リズムがよくて、読みやすいと思いました！ホワホワしていてかわいかった。
- 〇〇へ 花との関係がわかりやすく書いてあっていいと思った。かやちゃんらしいと思った。
- 〇〇へ 写真を撮るのが上手だなと思った。うれしさが壮大に表わされた詩だと思った。
- 〇〇へ 現実の女の子みたいでかわいいなと思いました。
- 〇〇へ カエルらしさと風歌らしさがでていて良かったです。Good!

◎みんなの感想を見ると、見る側もしっかり見てくれていたことがよくわかります。みんなからの感想も参考に、本番に活かしていきましょう。

Road to Senjo



芦安中学校
全校登山通信 No. 3
27. 7. 2 (水) 発行
発行者 全校登山担当

登山学習【南アルプス国立公園・仙丈ヶ岳について】

6月19日には芦安ファンクラブの方から大変高価な「デジタル一眼レフカメラ」を寄贈していただきました。これまでも指導者・支援者として芦安中学校の全校登山を支えて下さっており、大変ありがたく思います。大事に活用していきましょう。

6月30日には環境省自然保護官事務所の仁田さんと大石さんを講師に、南アルプス国立公園と仙丈ヶ岳の自然と動植物について教えていただきました。全校登山で行く山の中で最もライチョウが見られる確率が高いのが仙丈ヶ岳ということなので、期待も高まります。一方で鹿による食害は仙丈ヶ岳でも深刻なので、貴重な高山植物を大事にしながら登山を楽しみましょう。

◇わかったこと・感想（一部抜粋）◇

話を聞いてわかったこと

- ・ライチョウが少なくなっている。
- ・標高ごとに違う植物を見ることができる。
- ・ホシガラスとライチョウは間違えやすい。
- ・仙丈小屋は藪沢カールの近くにある。風力発電をしている。
- ・南アルプスは年間3~4mm 隆起し続けている。
- ・1990年代からニホンジカは高山帯に侵入してきている。
- ・氷河時代の平均気温は今より8℃ほど低い。
- ・ライチョウは6個の卵を生む。
- ・南アルプスは谷や削られた地形が多い。
- ・ライチョウは、爪以外全部羽毛でおおわれている。
- ・南アルプス国立公園は山岳公園の代表で、毎年60万人が登山者として来ている。
- ・イワツメクサはライチョウのエサ
- ・見られる花
オヤマ/エントウ コイワカガミ チョウ/スケソウ
ミヤマクロユリ ハクサンイチゲ イワウメ イワツメクサ
マルバタケブキ

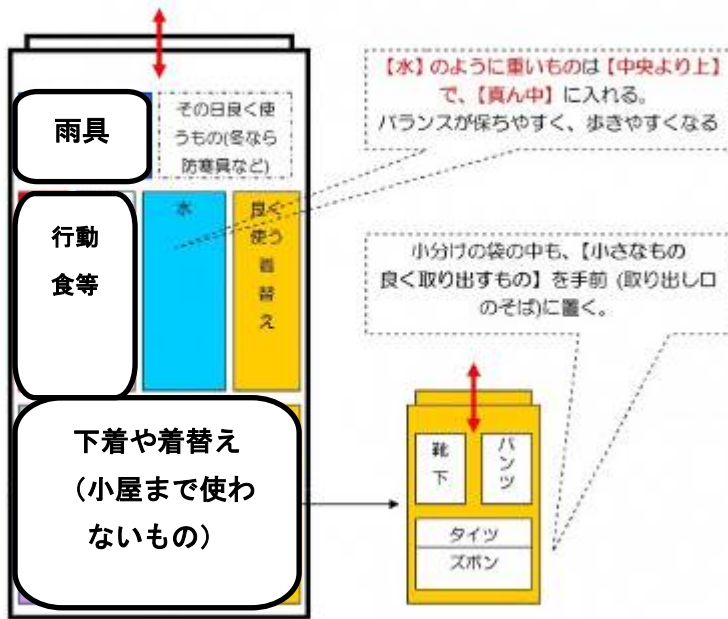
話を聞いた感想

- ・登るときには植物などちゃんと観察したい。
- ・植物をふんだりしないようにして行きたい。
- ・ライチョウがもっと増えればいいなと思った。
- ・鹿がこんなにも植物を食べているなんてびっくりでした。
- ・とてもためになる話ばかりで、登山するのが楽しみになりました。
- ・鹿に食べられた植物はなかなか直らないということが分かったので、自然を大切にしたいと思いました。
- ・鹿は山にとっては迷惑なんだなと思った。
- ・色々な植物の名前を知った。
- ・実際にどんな感じなのか見るのがさらに楽しみになった。
- ・植物については知らないことが多かったので、聞いていて楽しかったし知れて良かった。
- ・きれいな花や登山の時に見てみたいものが増えた。
- ・ミヤマクロユリを見たいと思いました。
- ・登ったら、色々な視点で見たいと思った。
- ・植物などちゃんと観察したいです。

登山の準備はOK？

期末テストが終わり、登山トレーニングも再開されましたが、登山の準備を始めていますか？登山直前になってあわてて準備してミスが出るのがよくあります。今のうちからチェックリストを活用して荷物の用意をしておきましょう。

リュックサックの透視図 良く使うもの、早く出て欲しいものから詰める。



◇パッキングのコツ◇

【一番上】

- 雨具、屋食や行動食
(すぐに取り出せる)

【真ん中】

- 水
(重いもの⇒バランスをとる)

【一番下】

- 着替えや下着など
(小屋まで取り出さないもの)

<持ち物チェックリスト>

ザック(30~40Lくらい)	しおり(6日配布予定)	水または飲料(1.5L以上)
登山靴	行動食(2日分)	日焼け止めクリーム
体育着上下(冬)・速乾性Tシャツ	筆記用具	デジタルカメラ(当日の朝貸し出し)
防寒具(セーター・フリース)	1日目の昼食	トイレットペーパー
着替え(靴下も含む)	ヘッドライト(予備電池)	ザックカバー(荷物の雨対策)
帽子	タオル	1食分程度の非常食
手袋(綿素材以外のもの)	ビニール袋	(洗面用具 歯ブラシ)
雨具(上下別のもの)	ティッシュ	(常備薬)必要に応じて

※今年も安全面の配慮として学校のヘルメットを各自持って行きます。

※常備薬について

友だち同士での薬の貸し借りは禁止です。一般的な市販薬でも合う合わないがあるので、必要だと思われる薬は自分で用意しましょう。

※雨具について

登山中はカッパ着用ですが、山小屋では折りたたみ傘も便利です。もし余裕があれば。

※山頂へはザックを置いて登ります。ウェストポーチや折りたためる小さいリュックなどがあると便利です。

※今年は2日目に暗闇の中を登ります。ヘッドライトの貸し出しは今年はいりませんので、予備電池を含めて準備をお願いします。